

第5回 施設整備基本計画専門部会 会議録

開催日時：2012年2月2日（木）13時半～15時

開催場所：町田市役所 町田リサイクル文化センター 研修室

出席委員：（敬称略）

細見正明、藤倉まなみ、高橋清人、伊東和憲、小林美知、藤井修

傍聴者：10名

《次第》

開会

1. 整備基本計画専門部会経過について
2. 資源化施設の配置検討について
3. 意見交換会について
4. 事務連絡

閉会

＜配布資料＞

資料1：整備基本計画専門部会経過

資料2：資源化施設の配置検討

資料3：意見交換会の進め方

・

第5回 整備基本計画専門部会議事録要旨

1. 開会

2. 整備基本計画専門部会経過について

〔施設検討の基本理念について〕

(小林委員)

12月8日に行われた第4回専門部会の議事報告について、全量焼却という意見が出たのは事実だが、基本計画に基づいて生ごみを資源化していくということは確認されたのではないかと。

(細見部会長)

生ごみの資源化していくことを基本にするということは合意できていると思うが、全量焼却と比べた場合のコスト比較等は議論しなければならない。

(高橋委員)

基本計画の策定に関わっていない人には、施設整備にあたっての基本的なスタンスがよくわからないと思う。私が考える基本スタンスは分散化、低公害、燃やすのではなく資源化という3つである。少々コストがかかっても資源化を進めるべきというのがこの委員会の基本的なスタンスではないか。それを意見交換会の際に明示しないと単なるコスト比較の話になってしまう。

(小林委員)

部会の中でそのような合意ができていればよいと思う。

(藤井委員)

燃やさないというのは生ごみだけの話なのか。熱回収施設を議論する際に RDF 施設も提示されたが、RDF は燃料化施設であり、メタン化施設と同じような位置づけで対比して議論すべきだった。

(細見部会長)

資源化できるものは資源化するのが基本計画の理念である。可能なものは全て資源化を目指し、残ってしまったものは燃やさざるをえないが、その量をいかに減らすかが重要である。

(藤井委員)

施設の選定基準において、経済性を考慮する場合としない場合があり、経済性の扱いが矛盾している。候補地選定では、経済性を考慮している。

(細見部会長)

先ほどの3つの基本スタンス（分散化、低公害、燃やすのではなく資源化）に関しては合意できているのではないかと。

〔ごみメタン化施設について〕

(高橋委員)

なぜごみメタン化施設の規模が50tになったのか。再度確認をしたい。

(細見部会長)

名古屋市や他の事例を見ると、42万人都市の町田市において生ごみのバケツ収集は困難であり、1日に50t排出される生ごみを処理しようとする機械選別が必要になる。機械選別では異物混入の影響により120t分の規模の施設が必要になり、それに伴い広い面積が必要になることから町田市の現状から考えると難しい。長岡市でも生ごみ分別収集を始めようとしており、町田市でも生ごみ分別収集ができる可能性が出てきた。分別収集が進めば50t規模の施設でも対応できるのではないかと話

になり、モデル地区を作って順次取組みを進めていき、資源化率を100%に近づけていく、その意味で50t/日のごみメタン化施設を作ってはどうかという結論になった。

(高橋委員)

意見交換会の資料では、ごみメタン化施設の施設規模を50t/日にした場合は28,000㎡の敷地面積が必要になるということが書かれていた。一方、施設規模を120t/日とした場合の必要敷地面積は36,000㎡であったと思う。70t分の差は35t/日のタンク2基分なので、タンク2基分で8000㎡もの面積の差が生じるのか。

(細見部会長)

8000㎡の差が生じた理由をメーカーに尋ねることを事務局にお願いしたい。

(田後部長)

資料中の面積のデータについて、確認をする。

(小林委員)

全て生ごみも紙も混ざった状態で収集するというやり方しかないというのが基本計画の結論であったため、それに基づいて議論してきた。しかし、120t/日の規模で施設を造ると広大な面積が必要になる上、稼動しているメタン発酵施設の中でこれほど巨大なものがなかなかないことがわかってきた。それゆえ小さな規模でも、良い状態で生ごみを集められる状況を作りながら、徐々に拡大していくというやり方がよいのではないか。またメーカーからのアンケート結果については、現状で2社しか回答がなかったため、回答をいただいたメーカーのデータとして明示していくというのがよいのではないか。

(高橋委員)

それはなるべく燃やさずに、紙を含めて何でもメタン発酵に回すという考え方なのか、それともそうではないのか。

(小林委員)

紙も含めて何でも混ざったものをメタン発酵すればよいとは考えていない。施設の規模の話が出てきたため、まず小さい規模から始めるしかないのではないかと考えた。

(高橋委員)

実験規模のものであれば他ですべきではないか。

(藤倉副部会長)

生ごみを試験的に分別して収集してはどうかという話ではないか。しかし、施設規模を50tにしたとき、余剰分は全て焼却されてしまうのではないか。

(高橋委員)

燃やさないという対象をなぜ生ごみだけにするのか。紙も一緒にしてメタン化してはどうか。そうしなければ紙は焼却に回ってしまう。

(内山次長)

紙は紙で資源化していく。紙を生ごみと合わせてメタン化していくという議論ではない。

(小林委員)

施設規模を50tにした場合の余剰分の扱いは、事務局としてどのように考えているのか。

(内山次長)

完全分別できるまでは、余剰分は燃やさざるを得ないと考えている。

(伊東委員)

前述の三原則に反対する人はいないと思うが、ごみを前処理してまでバイオガス化することには疑問を感じる。

(細見部会長)

その意味では、50 tを最終的な生ごみで満たすように市民自らの努力もしながら、あるいはモデル実験もしながら目指していくことが望ましいと私は思う。

(田後部長)

他市の生ごみの分別収集の事例は今後も調べていく。基本計画からぶれないようにして進めていく。

3. 資源化施設の配置検討について

〔施設の建設費について〕

(高橋委員)

建設費が高い印象を持った。ビン・カンは今までの規模であろうから、プラスチックが加わるだけで40何億円もかかるのか。土地代も費用の中に入っているのか。

(田後部長)

メーカーアンケートの結果なので、あくまで参考金額としてとらえていただきたい。

(事務局)

空調や脱臭等建築の設備の質が全く違うため、高くなっている。

(小林委員)

プラスチックに関しては不安感があるため、それなりの設備対策をする必要があり、そこにお金がかかっている印象を受けた。

(小林委員)

安全に処理するための設備を考えているということを意見交換会の資料で示すべき。

〔ペットボトルとプラスチックの分別上の扱いについて〕

(藤倉副部会長)

収集車の台数削減のため、プラスチックとペットボトルをセットにした形で分散化することは考えられないか。

(小林委員)

収集形態が影響していると思う。ペットボトルを拠点回収だけではなく集積場回収もしているから、全ケースでペットボトルとビン・カンがまとめられているのだと思う。その収集を変えれば、プラスチックとペットボトルをセットにすることは可能だと思う。

(田後部長)

今の集積場収集の方式で考えた方が収集効率はよいのではないか。

(藤倉副部会長)

「プラとペット」は、一緒に分散にできないか。

(内山次長)

ペットボトルは、中身が残っていることがあり、収集の段階でパッカー車で圧縮してしまうと他の物が汚れてしまうおそれがある。また、ペットボトルは先行して既に無料で集めているので、合意形成が難しいのではないかと思う。

(細見部会長)

作業工程は一緒であるが、ペットボトルは既にいくつかのやり方で収集が浸透しているもののプラスチックの収集は新規であるので、やはり分けて考えた方がよいと思う。

(高橋委員)

プラスチック収集は、なんで集積所収集にならないのか。

(内山次長)

プラの場合、収集実験で15%ほど異物が混入していた。石ころや紙や家庭の生ごみが混入しており、これは実験なので周辺に十分に説明してご理解いただいていたが、異物が出てきてしまった。それから、地域の意見交換会で、「安くていいから有料化にしてください」という意見があり、分けて戸別収集がいいのかなというところが審議会の結論になっている。

【施設の収集効率や作業効率について】

(細見部会長)

収集効率と作業効率、両方を考えなければならない。それらがコストと面積に影響する。

(高橋委員)

作業効率がおそらく非常に問題になる。施設を分散化して施設A、施設Bとしたとき、大きな機械を導入して例えば施設Aを午前中、施設Bを午後に稼働させるようなやり方をすれば、施設が一つの場合と比べて作業人員は半分にならないのか。

(田後部長)

施設をどこに造るかによってエリアの数、収集車の走行距離が変わり、それに伴って収集時間が変わる。そのような場合も考えられないことはないが、場所が決まっていない今の段階では難しい。

(藤井委員)

プラスチック圧縮・減容化施設について、選別のラインは3系列なのか。また圧縮機は本来1台ですむと思われるが、3台必要なのか。また、圧縮機が同じ場所に3台あれば、1台がトラブルを起こしても残りの2台で対応が可能と考えられる。またペットボトルとプラスチックの圧縮機は代用ができるかもしれない。このようなトラブル時の対応や代用利用による効率等はどのように考えればよいのか。

(田後部長)

八王子市にあるプラスチックの資源化施設は3系列持っている。町田市は八王子市と比べてもそれなりの人口を持っているので、複数系列はありえると思う。同じ規模の施設が3箇所あれば、1箇所が稼働できなくなっても残りの2箇所に対応できるということもあるので、まだまだ検討が必要であると思う。ペットボトルとプラスチックの圧縮機は同じもので、作業効率や時間を考えると時間帯をずらして対応できる可能性がある。そのような意見をどんどん頂きたい。

(小林委員)

プラスチックは軽いため、施設を分散化した方が効率がよい印象を持った。ビン、カンに関しては、事前に箱を設置してその後回収するという今の収集のやり方が変わらないのであれば、施設を複数個所に設けるのは大変だと思う。

【資源化ごみ処理施設の分散化のケース分けについて】

(小林委員)

分散化しようということで案を出しているから、一極集中のケース1は不要であると思う。

(藤倉副部会長)

ケース1は参考扱いにしてはどうか。

(藤井委員)

ケース1は不要という意見があるが、資源化ごみ処理施設は熱回収施設とは別の場所に造るのだから、ケース1は要るのではないか。また、ケース分けはケース4まででよいと思う。これ以上細かくしても、わかりづらいという気がする。

(小林委員)

ケース1は入れても駄目だとは思わないが、それで分散化と言えるのだろうか。市民と一緒に考えるという意味では、プラスチックは市民の目に触れながら安全な施設を何箇所か作るほうがよいのではないか。

(細見部会長)

ケース1とケース2を、熱回収施設とは別の場所に資源化ごみ処理施設を1箇所集中で造るという案をケース1とするように代える。

(藤井委員)

意見交換会の資料は、熱回収施設と資源化ごみ処理施設は別の場所に造るということをまず前面に出すべき。そして資源化ごみ処理施設を何箇所にもどのように分けて建設するかでケース分けをしているという流れにすべき。ケース分けの中身を細かく見ていくと様々な場合が想定され収集がつかなくなる。

(小林委員)

町田市市の歴史的経緯から考えると、プラスチックの処理施設を1箇所にするのは厳しい。収集効率の情報は市民が色々考える材料資料になるので残すべき。

(藤倉副部会長)

東西の端に建設する、市の中心に建設するというような位置に関するケースの分け方は不要だと思う。むしろ、いくつかということの場合分けして定性的に、人数・敷地面積の情報などを出し、車両の台数などは位置によっても変わってしまうので、「◎○△×」くらいで表現していいかもしれない。ケース2を残すのかについては、市民のみなさんにうかがいたい。

(細見部会長)

これまでの議論の経過を考えると、ケース2は部会として推奨しない。また、ケース4として、プラスチック施設Aを1箇所と、プラスチック施設Bとその他の資源物処理施設をまとめて1箇所というようなパターンも考えられる。色々なパターンを議論しているということを意見交換会でお話したい。

【リサイクル広場の提案について】

(小林委員)

資源化ごみ処理施設に併設する形で、常設のリサイクル広場、すなわちきれいな状態で持ち込んでくれる市民の資源ごみを受け入れるような場を設けてほしい。

(細見部会長)

努力している人達が活躍できるような場というものは、市民・事業者・行政の協働という意味において必要だと思う。そのことは基本計画でも議論した要素の1つだったと思う。協働の場づくりという意味でも、施設整備を考えるときに配慮していきたい。

4. 意見交換会について

(細見部会長)

資源化施設とはどんなもので、プラスチック資源化施設ではこんな配慮する施設ですと言っていた

だきたい。それと専門部会では、熱回収施設とは別の場所に資源化施設を作ることと、パターンと数はこれから示す。ここまでは市民意見交換会に出していただく資料としては合意できていると思う。今までと同じ収集体制でいこうと資源化基本計画は作ってきているが、それを若干修正する意見もある。もうひとつ、メタンにして燃やすか使うか、いづれにしてもCO₂になることについて最初からすべて熱回収やるのもひとつの事例として示すべきか、資源化基本計画だけの議論の形にしておくのか確認しておきたい。

ごみメタン化施設の建設に面積が増えるのと、おそらくコストがかかると委員の皆さんにそういう思いがあると思う。結局市民への負担になるので、それを理解していただくため、部会でも議論してきたことであるので、この意見も意見交換会資料に併記した方がよいと思うがいかがか。

(小林委員)

そのような議論をしたということは事実であるが、前提を崩すとおかしいことになる。CO₂を出さないために生ごみを全量資源化しようということにかなり時間を割いて議論した。その結果、メタン化施設の提案が出てきた。新しい委員でそういう議論が出たと思う。しかし、基本計画の大原則は外すべきではない。

(藤井委員)

ごみメタン化施設に関しては、コストだけではなく安全面、たとえば地震が来たときの安全面の観点も重要である。

(伊東委員)

対象物を絞った形、生ごみでバイオマスをやるなら賛成できるが、ごみを前処理してまでバイオマスをやるのはあまり賛成できない、疑問がある。

(小林委員)

意見交換会のあと、先進事例を見る時間をとってください。

(細見部会長)

何らかの形でチャンスをつくりたい。

5. 事務連絡

次回専門部会 3月29日 15:00~18:00 リサイクル文化センター研修室

6. 閉会